


# みらいん

2014  
5月

仮住まいから、恒久的な「我が家」へ  
家を再建するといふこと。

表紙のひと／前略 お元気ですか  
みらいん編集部取材ダイアリー  
沿岸部復興ニュース／これから住むまち  
読者からひとこと／交流サロン紹介  
クロスワードパズル／ふるさとにごつつおさん



「みらいん」は、  
震災からの復興に向けて  
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の  
今を結ぶ情報紙です。



## ごあいさつ

仙台発 震災復興 地域かわら版「みらいん」は、復興に向かう仙台市東部沿岸地域の現在の様子、仮設住宅のコミュニティづくり、生活再建に資する情報などをお届けするため2011年12月に創刊されました。

震災から4年目を迎え、仙台市内に住む被災された方々の状況は、今も刻々と変化し続けています。みらいん編集部は、そんな皆さんの再建に向けての取り組みや心模様を取材し、本冊子を今年度、隔月で発行していきます。

次の一步を踏み出すための情報紙として、または、懐かしい顔を見つける読み物として…。本紙が少しでも皆さんのお役に立つことができれば幸いです。

「みらいん」編集部一同

### 仙台発 震災復興 地域かわら版 みらいん【30号】

2014年5月1日発行

発行  
仙台市

企画・編集

協同組合みやぎマルチメディア・マジック  
岡崎裕子  
熱海奈穂子／網野武明／鉅鹿大輔／菊地明彦  
齋藤孝之／佐藤有希／芳賀幸子  
金子秀樹

印刷

ハリウコミュニケーションズ株式会社

協力

河北新報社

特別協力 (五十音順、敬称略)

産直広場ぐるぐる  
JA 仙台農産物直売所 たなばたけ高砂店

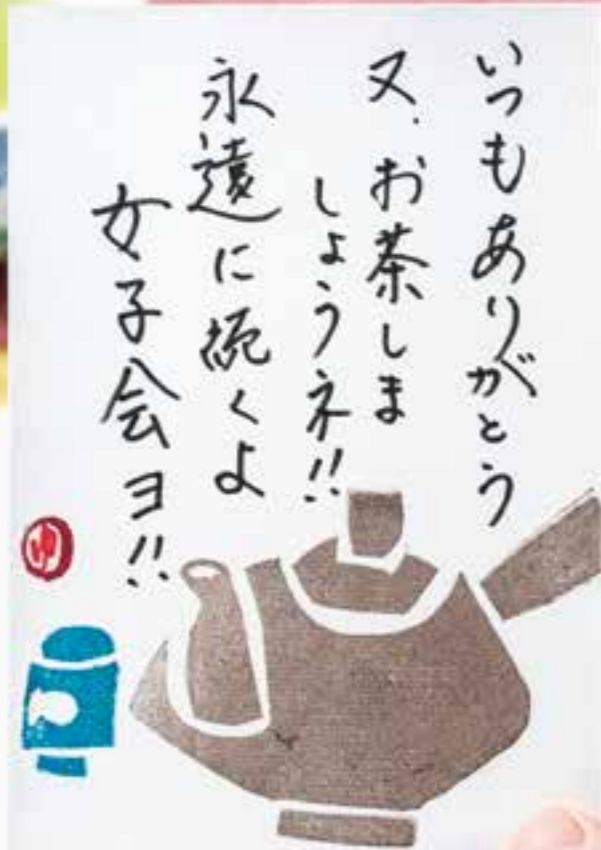
お問い合わせ

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町 2-12  
協同組合みやぎマルチメディア・マジック  
「みらいん」編集部  
Tel.022-390-5755 Fax.022-390-5756  
kawara@mmmm.or.jp

前略  
お元気  
ですか

## 富田ゆきみさん

からのお便り



震災から十日後に久美子ちゃんと会った時は、周りもはばかりに抱き合っ、お互いに声を出して泣きましたね。  
あれから三年。久美子ちゃんはいつも私を支えてくれました。衣服の世話からアパート探しまで、あなたがいないかったら、私や娘はどうなっていたのでしょうか。  
思い返せば、高校のハイキングクラブで知り合ってから、私が名取市閑上に嫁いでも、友人としていつも話し相手になってくれたいた久美子ちゃん。若林区の借り上げ民間賃貸住宅に住んでいる今はご近所さんで、毎日でも会ってお話できるけれども、きちんとお礼の言葉を伝えていなかったかも。しれません。  
久美子ちゃん、ありがとう。本当にありがとう。あなたが長い間友人でいてくれて良かった。今ではすっかり元気を取り戻して、あちらこちらへ自転車で出かける毎日です。これからも、ふたりの女子会を、よろしくね!

お便りを  
受け取った  
初田久美子さんより

ゆきみ! あなたがいてくれて良かったよ。震災後は、心配で心配で、生きて会えることを半分あきらめていたくらいだった。  
今は私の方が支えてもらっています。ゆきみが近所にいてくれて、気持ちがとても楽になったんだよ。ずっと女子会続けようね!

### 消しゴムはんこでポストカードをつくってみませんか?

「みらいん」では、消しゴムはんこを押してポストカードをつくり、大切な人へメッセージを書く体験教室を開催します。教室でつくったポストカードの中から、次号のこのコーナーに掲載するハガキを選出します。はじめての方でも簡単にできます。ぜひご参加ください。参加無料。

- 参加にあたっては応募が必要です。下記をご覧ください。
- 対象者／東日本大震災で被災した、現在太白区にお住まいの方10名。応募多数の場合、抽選とさせていただきます
- 開催日／5月31日(土) 10:00~12:00
- 会場／太白区中央市民センター
- 応募方法／2ページの「みらいん」編集部お問い合わせ先に電話でご連絡ください
- 応募締切／5月23日(金)



### 表紙のひと

(前列右から時計回り)  
阿部いみ子さん 三浦典子さん 鈴木たえ子さん  
山下和磨さん 阿部美幸さん 瀬戸恭子さん  
川島裕伸さん

2013年7月、宮城野区岡田の南蒲生地区に開業した養液栽培による農業施設「みちさき」。3つの大きな棟では葉物、トマト、イチゴが生産され、主に大手小売店などに卸されています。従事する方々は被災された方が多く、その口からは働くことの喜びが聞かれます。地元から通う川島さんは「被災した土地に出来た、注目されている野菜工場で働けることがうれしい」と話し、若林区井土出身の三浦さんは、「震災前まで農家だったから、野菜に囲まれて元気づくね」と話します。「被災沿岸部に雇用を生み出す目的が大きく、その義務はある程度果たしている」と話す菊地守社長も、井土で被災しました。この地を選んだ理由として、南蒲生町内会からの熱心な誘致があったこと、ゆくゆくは近接する下水処理施設の排熱を施設の温室化に運用することを目指している点を挙げます。近い将来の展望として掲げるのは、地域と連携した振興。毎週土曜日に開く朝市は盛況で、いずれは近隣農家が育てた農作物も一緒に売り出す場になれば、との思いは地域も同じです。「南蒲生を人の集まる場に」という皆の思いが少しずつ育ち始めています。

撮影場所／「みちさき」ハウス内(宮城野区)。現在、アルバイト、パートの若い力を大募集中です。盛況の「朝イチマルシェ」は毎週土曜日朝7時から。





# 仮住まいから、恒久的な「我が家」へ 家を再建するということ。

震災から丸3年、仙台市内では  
仮の住まいでの暮らしを経て  
自宅を再建する方が増えてきました。



## 孫のこれからを考えて決めた物件

小山盛記さんご一家

南三陸町志津川で被災した小山盛記さんが、避難所や仮設住宅生活などで体調を崩した孫の倅花ちゃん（ごうか）の生活環境を考えて、泉区黒松の築十七年の中古住宅を購入、入居したのは昨夏のことでした。しかし、期日通りに終わらなかつた上下水道工事などが並行して行われるなか始まった新生活は、断水があったりとせわしないものでした。冬によく工事も済み、生活に落ち着きが出てきた最近では、「近くで何か仕事を見つけて動き出したい」と、同居する娘のさち江さん。そして倅花ちゃん（ごうか）は友だちに会える幼稚園を楽しみに毎日を通っています。一方、「近所と交流したいという気持ちより、今はまだ故郷の方が気になる」と妻の和子さん。「やっぱり故郷、戸倉の海を見ながら暮らしたい」という気持ちに胸に、盛記さんは窓の外に広がる森を眺める毎日です。

今までの住まいと比べると狭いと感じますが、それでも、隣に建つ小学校から子どもたちの声が響く今の環境に救われているという夫妻。これから家を購入する方へ「我慢せずに期待をすれば、願いは叶う」と助言をし、「孫のために皆で力を合わせ、病気をしないで元気でいたい」と話します。



## ご近所の方とメーカーに感謝

芳賀芳明さんご一家

宮城野区南蒲生町内会で海に近い場所に住んでいた芳賀さん一家は、その地域が災害危険区域に指定されたため、自宅を他の場所に再建することになりました。芳賀さんを含む五世帯がまとまり、仙台市の防災集団移転促進事業として最初の整備となった同町内会の「蒲生稚子袋地区」を移転先として決定。長男・慎さん（まこと）（撮影の日は仕事で不在）が施主となって、家族皆でたくさんハウスメーカーや各地の住宅展示場をじっくり見てまわった上で、メーカーを決めました。「注文住宅と言う割に自社プランにはめ込もうとする会社が多くみられました」と語る妻の静子さん（しずこ）。一家の要望に真摯に対応してくれるメーカーが決まった後は、慎さんが内装や設備などを全てを決めていきました。お日柄を選び一家が引越したのは、大安の今年三月十六日でした。

実際に住んでみての感想は、「家の住み心地はいいし、知っている人が近所にいるからほっとしたっていうのが一番。町内会の班も震災前と同じ班のまま」と芳明さん。夫妻は「近隣に住む子どもたちの明るい声が響き渡るこの地域で、楽しく近所付き合いを重ねていきたいですね」と、笑顔で語りました。





# 新天地で再建、

# こだわりの新居

篠澤裕子さんご一家

宮城野区蒲生で被災、避難生活を経て、昨年末に青葉区錦ヶ丘へ移転した篠澤さんご一家。世帯主の裕子さんと父母、弟、長男に、かわいい柴犬の五人と二匹暮らしです。ここを選んだ決め手は、裕子さんの勤め先に近いことと、南向きで日当たりがよかったことです。

「近所の方はとてもいい方ばかりなんです」と母の芳江さん。庭の一角を家庭菜園にするために、現在土起こし中。野菜が育ったら、近所へお裾分けする予定だそう。小学三年生の長男、叶夢くんもすぐに友だちができて、家を行き来するなど、ご家族は新たな交流を見つけていました。

家を新築するにあたっては、本やインターネットでの情報収集、展示場の見学などで勉強し、「建てたい家を明確にイメージした」と裕子さん。間取り、水回りなどの細部までこだわり、納得いくまでハウスメーカーと打ち合わせを重ねました。入居後も、階段の幅を直すなど、住みやすさの追求に妥協はありません。

裕子さんの目下の目標は「来年までにヨガインストラクターの資格を取り、自宅で教室を開くこと」。こだわりの新居での新たな展望を描いています。



# 故郷で再建する三人家族です

佐藤孝三さんご一家

「地域コミュニティって言うのと堅いけれど、ご近所が皆顔見知りだから安心できるんだよね」と語るのは、若林区三本塚で自宅再建中の佐藤孝三さんです。

孝三さんは妻の真知子さんと共に、震災後に地元で組織された『明日の三本塚を考える会』に参加して、地域内移転を検討したり他地域の復興住宅を勉強したりするなど、自宅再建にむけて積極的に活動してきました。

「色々と考えたんですが、最終的に故郷で再建することに決めました」と話す孝三さんは、会の活動を通じて専門家の紹介を受け、木造の従来工法でありながら、高気密・高断熱の家にとどり着きました。

総二階で個室四部屋に、吹き抜けのリビンググループがモダンです。同居する息子の崇たかしさんは建築中の二階自室を見て「ウワァー、広いなあ」と大喜び。真知子さんは「気密性が高いから部屋の換気には十分気をつけてくださいって、設計者から言われたんですが、ちょっと緊張しちゃいますね」と笑います。

「生まれ育った三本塚ですから、友人もいますし、何よりもこの開放感が良いですね」。五月の入居が待ち遠しいご一家です。





宮城野区  
東部沿岸に蘇る緑の風景  
農地復旧・除塩工事が終了

昨年、除塩作業が済んだ一部の田んぼで3年ぶりに稲作を再開した岡田地区。並行して進んでいた残る予定農地の復旧・除塩工事は、2月の大雪で遅れが生じましたが、間もなく終了します。復旧した田んぼでは今年、震災以降、将来を見据えた集落営農に乗り出した「岡田生産組合」の南備生・堀切・新浜班が作付を手がけ、その面積は、昨年の約4倍にあたる10年になる予定です。工事中断中の新浜東通区域は、今年5月から復旧工事を再開予定です。



若林区  
若林区沿岸部を安全に  
名取川河川堤防が復旧

名取川の河口付近、若林区の東南端に位置する藤塚地区で、堤防の災害復旧工事が完了しました。この堤防は既に完成した貞山運河堤防と連結して、内陸部を津波や洪水から守ります。

堤防から仙台市内を眺めれば、遠く太白山から泉ヶ岳を望み、かつては藤塚の集落が軒を連ねていました。復旧したこの堤防は、沿岸部に住む方の安心・安全な生活を支え、新しい沿岸部の暮らしを守っていきます。



3月9日(日)  
◀宮城野区中野小学校駐車場跡地  
慰霊塔前で行われた  
「東日本大震災中野学区合同慰霊祭」



3月10日(月)  
若林区荒井小学校用地仮設住宅での  
お読夜。浄土寺住職の読経



3月11日(火)  
◀七郷中学校OBの  
HOPE FOR projectによる、  
若林区荒浜小学校での  
バルーンリリース



▲青葉区仙台国際センターで行われた  
「東日本大震災仙台市追悼式」



▲太白区あすと長町仮設住宅の追悼集会。  
東方向へ黙とうを捧げました



▲若林区井土海楽寺の  
「3.11を心に刻む集い」



▲若林区荒浜慰霊塔での献花。  
14時46分には黙とうが捧げられました



▲宮城野区中野小学校駐車場跡地の「阪神淡路  
大震災と東日本大震災合同のキャンドル鎮魂祭」

震災から三年

東日本大震災発生から三年を迎えた三月、市内各地で追悼行事が行われました。

野球解説者のトークショー  
(太白区・あすと長町仮設住宅)  
3/23(日)



元楽天イーグルスの投手で、現在はスポーツコメンテーターとして活躍する山村宏樹さんを招いてのトークショーが行われました。会場で山村さんは、元プロ野球選手ならではの逸話の数々を披露。自らの引退理由や歴代監督の裏話などで盛り上がり、参加者との交流を深めていました。

甘味で春を満喫  
(太白区・宮城大学太白キャンパス)  
3/24(月)



宮城大学食産業学部が被災された方を対象に、毎月開催している食品加工体験。今回は桜餅とうぐいす餅づくりです。参加者と学生ボランティアさんたちが協力し、つくった餅は柔らかくてもちもち。最後は余った小豆を使ったぜんざいもいただき、「もうお腹いっぱい!」と、大満足の皆さんでした。

「港元気会」お別れ式  
(宮城野区・高砂1丁目公園仮設住宅)  
3/10(月)



約60年続いた港町内会の老人クラブ「港元気会」のお別れ式。在りし日の日和山や蒲生の映像を観ながら歓談しました。借り上げ民間賃貸住宅に離れて暮らす方々にとっては特に心のよりどころでしたが、この日が最後。「これからも和を大切に、年に1度は集まりたいね」と会長の星久夫さんです。

夢と希望のまちづくり!  
(宮城野区・蒲生)  
3/16(日)



高砂学区に住む中高生が「楽しい防潮堤と歴史冒険野鳥の広場」と銘打った蒲生周辺の新たなまちづくり案を発表しました。貞山運河や舟溜まりの再現、歴史館や震災資料館、緑の防潮堤の創出など、夢のある案の数々に大人からは「発想が豊かで素晴らしい!」と感嘆の声が上がりました。

住宅再建へ、大きな一歩  
(若林区・六郷)  
3/30(日)



東六郷の浸水区域から、六郷地区への集団移転を計画する住民グループ「東六郷移転推進協議会」の移転地で、地鎮祭が行われました。発足から2年余り、紆余曲折を経て迎えたハレの日「やっとここまでこれた」と、共同代表の落合義光さん。年内造成完了予定です。

研修会開催  
(太白区・声のロコミュニティセンター)  
2/26(水)



芦の口復興公営住宅支援に関する研修会が開かれ、多くの地域住民の皆さんが参加しました。会では、すでに災害公営住宅への入居が始まっている美里町から自治会の会長を招き、取り組み事例の紹介と意見交換を実施。皆さん真剣な面持ちで耳を傾けていました。

みらいん編集部  
取材ダイアリー

2月~3月

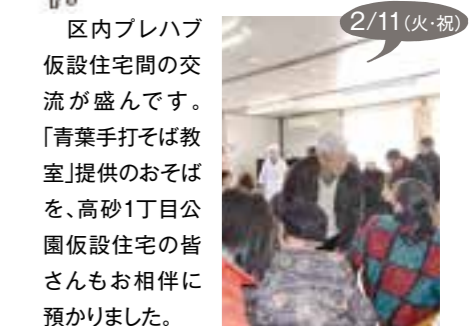
みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

絞ったらスダラガスんだよ  
(若林区・荒井小学校用地仮設住宅)  
2/8(土)



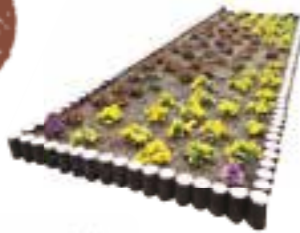
若林区荒浜から採取した植物で草木染めにチャレンジしました。真っ白な木綿が自然な色に染まって、オリジナルハンカチの出来上がりです。

仲良く一緒にお相伴  
(宮城野区・鶴巻1丁目東公園仮設住宅)  
2/11(火・祝)



区内プレハブ仮設住宅間の交流が盛んです。「青葉手打そば教室」提供のおそばを、高砂1丁目公園仮設住宅の皆さんもお相伴に預かりました。





◀片平地区の各町内会では花壇づくりなどを通して地域の交流を図ります



①片平地区まちづくり会



②霊屋下町内会

地域の町内会 & 交流グループなど

- ①片平地区まちづくり会 片平地区連合町内会が母体となり、片平学区民体育振興会や片平地区社会福祉協議会、片平地区民生委員・児童委員協議会、片平市民センター・児童館などで構成された団体です。イベントなどを通し、まちづくりに取り組みます。
- ②霊屋下町内会 霊屋、霊屋下の復興公営住宅建設予定地の町内会。年間を通してサロンの開催や清掃活動などを行っています。
- ③霊屋復興公営住宅を考える会 霊屋下町内会をはじめ、片平地区まちづくり会や学識者などが一体となり、同住宅への入居者の受け入れ態勢や入居後の交流などについて話し合っています。
- ④片平児童館 通常の児童館業務に加え、子育て世代が気軽に参加できる「ハッピーパパ・ママの子育てカフェ」などを開催します。
- ⑤片平市民センター 60歳以上が対象の「シニア隣経大学」をはじめ、地域の生涯学習の拠点として、多彩な催しなどが行われます。



▲片平地区の歴史や地図をまとめた「ウエルカム片平」

# これから 住むまち

これから整備される復興公営住宅、防災集団移転促進事業の宅地ができる地域の様子と、地域で交流を楽しむ方々をご紹介します。

## 地域一体となったまちづくり 新たな絆づくりにも積極的

霊屋・霊屋下エリアは、藩政時代からの佇まいを色濃く残す町です。閑静な住宅街が広がる地域内には、東北大学片平キャンパスのほか、宮城県工業高校や片平丁小学校、片平市民センターなど多くの文教施設が点在。近隣には、藩祖・伊達政宗公の墓所として造営された瑞鳳殿が鎮座するなど、文化的な香りの漂うエリアです。

この地域では、連合町内会や地区社会福祉協議会、片平市民センターなどが連携した「片平地区まちづくり会」を設立。地域活性化のためのイベントを実施するなど、地域一体となったまちづくりが行われています。

四月上旬現在、霊屋復興公営住宅はまもなく着工する予定。霊屋下復興公営住宅は基礎工事中です。



③霊屋復興公営住宅を考える会



④片平児童館



⑤片平市民センター



①通町地区町内会連合会



②北田町町内会



③通町学区民体育振興会



⑤官城岳風会小田原教場



④通町地区社会福祉協議会

## 地域の絆を見直して 新たなコミュニティを構築

青葉区通町は、伊達政宗公が祭られた青葉神社がある由緒あるエリアです。もともとから奥州街道沿いにある、交通の便に恵まれた住宅地でしたが、近年開通した北山トンネルにより利便性もアップ。集合住宅などの建設が相次ぐなど、周辺人口の増加が予想されています。

また、町内会を中心とした交流が積極的に行われているエリアで、情報発信基地としての役割を担う通町コミュニティ・センターを中心に、通町地区町内会連合会や地区社会福祉協議会、学区民体育振興会が一致団結。地元住民のコミュニケーション活性化を促しています。

通町復興公営住宅の工事の進捗具合は、四月上旬現在、基礎工事中となっています。



▲官城岳風会で使う教本とカセットプレーヤー

地域の町内会 & 交流グループなど

- ①通町地区町内会連合会 27町内会4700世帯が所属する連合会で、他の地域団体と連携をとりながら、さまざまなイベントに参加しています。住民の一体感を育む通町学区区民親睦大運動会をはじめ、盆踊りや合同防災訓練などの行事を、年間を通して行っています。
- ②北田町町内会 通町復興公営住宅建設予定地の町内会。近隣町内会の中では一番多い約500世帯が、レクリエーション活動や老人会などの催しで交流を図っています。
- ③通町学区民体育振興会 月に2回のグラウンドゴルフ大会をはじめ、住民の体力増進の一助を担っています。
- ④通町地区社会福祉協議会 年間を通して「いきいきサロン」を開催。体操や絵手紙教室などの生き甲斐づくりを応援しています。
- ⑤官城岳風会小田原教場 通町コミュニティ・センターで活動する詩吟サークル。週に1回2時間ほど活動中。問/022-278-6431(西澤)



▲いきいきサロンではボールを使った体操も



## 中倉・大和町 エリア (若林区)

薬師堂では毎月8日に  
手づくり市を開催中▶



②大和中倉町内会



⑥大和地区子供会

地域の信仰に欠かせない  
陸奥国分寺薬師堂の石碑▶



### 地域の町内会 & 交流グループなど

- ①大和地区連合町内会 復興公営住宅建設予定地を含む9町内会の4300世帯で構成されています。避難訓練や学区民対抗で行われる運動会などで親睦を図り、明るいまちづくりを実践しています。
- ②大和中倉町内会 中倉に建設される復興公営住宅所属予定の町内会です。防災訓練や夜回りなどの活動のほか、料理教室や陶芸教室、ボウリング大会など、積極的な活動を行っています。
- ③中倉みづほ会 中倉の65歳以上のメンバーで構成される老人会。ゲートボールや清掃活動など、週3回ほど集まり交流しています。
- ④大和町5丁目町内会 大和町の復興公営住宅が建つ地域の町内会。芋煮会や運動会、餅つき大会などイベント盛りだくさん。
- ⑤大和地区子供会 各町内会の児童が集まり、餅つき大会や交通安全パレードなど、年間を通じてさまざまな交流活動を実施しています。大和町5丁目地区の子供会では、地域を彩る七夕飾り制作を行います。

## これから住むまち



①大和地区連合町内会



③中倉みづほ会



④大和町5丁目町内会

## 多彩なイベント目白押し 古から栄える城下町エリア

二〇一五年開業の地下鉄東西線「卸町駅」にほど近い中倉・大和町エリアは、江戸時代から仙台藩の城下町の一部として栄えてきた町です。この周辺は、古くから枕詞にもなっている「宮城野」の地としても知られ、弥生時代からの遺跡や、国指定の重要文化財「薬師堂」などが点在する由緒あるエリアです。中倉と大和町の復興公営住宅が建つエリア内にある大和地区連合町内会は、九つの町内会が合同で行う避難訓練や運動会のほか、商店街を彩る七夕飾りの制作などを通して、地域全体で街の活性化を図っています。四月上旬現在、中倉、大和町復興公営住宅は共に基礎工事中です。

## 幸町南エリア (宮城野区)

さいわい絵手紙  
サークルの作品▶

## 「幸せな町」を 一緒につくる仲間が集う

戦後、住宅街として開発が始まった幸町。その地名には、「皆で幸せな町をつくらう」という思いが込められています。かつては田園地帯や工業地帯として土地が活用されてきましたが、現在は多くの集合住宅や大型ショッピングセンターなどが立ち並び、住みやすさで人気の町になりました。

幸町南復興公営住宅が建つ地区を取りまとめるのは、幸町南学区連合町内会です。後藤次男連合町内会長を中心に、地域の方々からは町の利便性を活かしながら楽しく安心・安全なまちづくりを推進。幸町市民センターや幸町南コミュニティ・センターを地域の交流拠点とし、さまざまな催しやサークル活動に取り組んでいます。

幸町南復興公営住宅の建設は、五月半ばから着工となる予定です。



①幸町南学区連合町内会



②幸南復興太鼓



④アミューズおひさま



⑤さいわい絵手紙サークル

幸南復興太鼓で  
使用している和太鼓▶



③わいわい農園

### 地域の町内会 & 交流グループなど

- ①幸町南学区連合町内会 復興公営住宅が建つ幸町町内会を含む11の町内会で構成。5月の体育祭、7月の夏まつり、11月の防災訓練などを通して地域の方々が交流しています。
- ②幸南復興太鼓 昨年、幸町南小学校5年生が活動を始めた創作和太鼓。震災後、新たな地域文化の継承をと、市内の和太鼓ユニット「Atoa」の指導のもとで練習を行いました。
- ③わいわい農園 幸町市民センターの一角にある畑を会場に、春～夏は参加者全員で農業体験。秋以降は参加者各自に畑が割り当てられ、思い思いに農作物を育てることができます。
- ④アミューズおひさま 被災した方と地域の方をお茶会などでつなぐ交流事業を行うNPO法人。子育て・高齢者支援や各種相談にも応じています。問/022-291-1916(アミューズおひさま)
- ⑤さいわい絵手紙サークル 幸町市民センターで、毎月2回木曜日に開催。会員は皆初心者で、のんびりムードで絵手紙づくりを楽しんでいます。



▲幸町市民センターなどで  
閲覧できる地域の地図

各復興公営住宅の立地や間取りなどの情報は「平成25年度復興公営住宅情報」(仙台市都市整備局復興公営住宅室発行)でご確認ください。冊子をご覧になりたい方は、現在お住まいの区役所まちづくり推進課にお問い合わせください。  
青葉区/022-225-7211、宮城総合支所/022-392-2111、宮城野区/022-291-2111、若林区/022-282-2111、太白区/022-247-1111、泉区/022-372-3111(すべて代表番号)







若林区荒浜で伝承されてきた精進料理

# 「に」

ふるさとに  
ごっつおさん

我が家で受け継がれてきた  
郷土の味、紹介します。



## 材料・レシピ

### 材料(4人分)

- ◆干しシイタケの戻し汁 800cc
- ◆厚みのある油揚げ 4枚
- ◆しょうが 適量
- ◆せり、三つ葉など季節の青菜 適量
- 砂糖 大さじ2
- 塩 小さじ1
- めんつゆ 大さじ3
- うま味調味料 小さじ1

### つくり方

1. 油揚げに菜箸などで穴を開ける
2. 鍋に油揚げ、干しシイタケの戻し汁を入れる
3. 鍋を火にかけ、煮立ったら●の調味料で味をつける
4. 味が決まったら弱火にして30分ほど煮込む
5. 器に盛り、季節の青菜、擦ったしょうがをのせて完成

「に」は、油揚げを干しシイタケの戻し汁と醤油などで煮た、荒浜に伝わる精進料理です。使用する油揚げは地元の豆腐店のもので、厚みがあり、お椀いっぱい大きさだったと言います。「切っていない油揚げがドンとお椀に入っているから、初めて見た時は驚いたわ」と話すのは佐藤美保子さん。他県から嫁いできたため「に」を知らず、葬儀の手伝いを通してつくり方を覚えたと言います。「荒浜はどこか一軒で不幸があれば、集落の4分の1が動いたからね。ああでもないこうでもないって言いながら地元のお母さんたち皆でつくるから毎回味が微妙に違うんだよ」。美保子さんがつくる「に」は、夫の善一さんの好みに合わせて甘めの仕上がります。最終的に味見役の家庭の味になるため、「アンタんとは甘いから、味見役なくていいわって言われたこともあるの」と笑います。「最初に油揚げに穴を開けると破裂防止にもなるし、味染みも良くなるよ」と、コツを教えてくださいました。